

町政を問う

一般質問とは

議員が町政全般にわたり、執行機関（町長・教育長など）に疑問点について、所見を伺うことです。



高橋 克英 議員

平和祈念館前庭の

ブロンズ像劣化防止対策は 4



高森 功治 議員

有害鳥獣対策について 5～6

議会の会議録はホームページでご覧になれます

長万部町ホームページトップ → 町議会 → 会議録 からお入りください。

長万部町役場ホームページ

<http://www.town.oshamambe.lg.jp>

— 高橋 克英 議員 —

平和祈念館前庭の ブロンズ像劣化防止対策は (町長) 修繕も含め維持管理に努める

高橋 長万部町の貴重な財産である平和祈念館は、昭和58(1983)年8月15日に開館した。この建物は町内で43年間、開業医をされていた故工藤豊吉氏が、建物本体・収蔵美術品・前庭のブロンズ像を総額2億円以上と言われる私財を投じて購入し、長万部町に寄贈された、道内でも特筆すべき施設である。

開館に先立ち、工藤氏からの平和祈念館寄贈の「寄付採納願」を受理し、町有財産となった。このときの寄贈条件として、多くの観覧者に鑑賞してもらいうよう、入館料は徴収しないことが確認されている。

開館から41年目となる本年、平和祈念館を見学したところ、前庭に設置されている北海道を代表する彫刻家、本郷新によるブロンズ像5基が本来の青銅色から黒色化して

きており、酸性雨や塩害による経年劣化と見受けられる。また、「嵐の中の母子像」の台座自体の破損も見受けられる。

以下3点について伺う。

①本郷新によるブロンズ像、特に貴重と思われる「嵐の中の母子像」と「わだつみのこえ」は歴史的価値及び美術的価値があると思うが、長万部町文化財保護条例に基づく文化財指定を検討しては。

②ブロンズ像の劣化防止対策を、日常どのように行っているか。

③ブロンズ像修復の専門家による損傷判定と、修復を行う計画はあるか。

以上、来たるべき北海道新幹線長万部駅開業を見越し、長万部町の貴重な文化財であり、観光客の集客施設としても重要な施設である平和祈念館の維持管理についての考えを伺う。

教育長 1点目の文化

財指定については、指定されている文化財が、現在6点ある。指摘のあった2点のブロンズ像は、長万部町文化財調査委員の意見を聞き、検討していく。

2点目の質問については、ほこりや汚れを落とし拭き取り程度しか行っていないが、どういう方法があるのか探つていこうと考えている。

3点目のブロンズ像の損傷判定と修復は、現時点では考えていないが、台座は、修繕していく。

高橋 このブロンズ像は、歴史的、美術的にも価値が高いと思われる。札幌市に本郷新の美術館があり、専門の学芸員もおり、助言をいただいているかどうか。



平和祈念館



教育長 清掃の方法も含めて助言等を頂戴したいと考えている。

— 高森 功治 議員 —

有害鳥獣対策について

(町長) 察と猟友会と綿密に連携しながら 対応を行っている

高森 近年、全国的に有害鳥獣の被害は拡大傾向にあり、令和3年6月には、札幌市東区においてヒグマの襲撃事件まで発生した。

現在、長万部町では、クマやシカの生息数をどのように把握しているのか。また、ハンターの現状と今後の育成をどのように考えているか。

町長 有害鳥獣による農作物被害は年々増加する中、近年では北海道でも市街地にクマが出没し、人命を脅かす深刻な事態となっている。

当町におけるクマやシカの生息数については、

北海道としても市町村別の生息数の把握には至っていないのが現状であるが、目撃情報から見ても増加傾向にあることは間違いない。

これら有害鳥獣駆除に欠かせない「ハンター」の現状についてだが、現在39歳から82歳までの10名の方が町内猟友会に登録している。いつ出没するかわからないことから、当町としては常に警察と猟友会と綿密に連携しながら対応を行っている。

今後、有害鳥獣対策に猟友会のハンターは、無くてはならない存在であり、ハンター育成につ

いても地元猟友会と十分な協議の上、対応していきたい。

高森 農作物被害は年々増加しているが、昨年度有害鳥獣をどのくらい捕獲したのか。

産業振興課長 令和5年度の有害鳥獣の捕獲実績は、キツネが20匹、タヌキが69匹、アライグマが96匹、シカが29頭となっている。ヒグマの捕獲は無い。

高森 今年に入ってからクマの目撃情報は何件あるのか。また、その場所はどこか。

産業振興課長 今年度の目撃情報だが4件来て

いる。地区は茶屋川、国縫、栄原、富野の4件となっている。

高森 奈井江町のハンターの出動手当が話題になっているが、長万部町の出動手当はいくらか。

産業振興課長 出動手当は1回につき1万円となっている。

高森 1万円になったのはいつからか。

産業振興課長 平成14年から1万円になっている。

高森 平成14年ということ、22年経っているが、この金額は妥当だと考えているのか。

町長 ハンターの出動手当は、全道で話題になっているおり、各町村が取り組みを進めているところだ。新たな金額の設定は、各々の町で決まるのだろうと思っている。全道統一という話には私はならないと思っている。その町の条件、それと獵

友会と十分協議した上で、猟友会の希望を取りながらやっていく。

もうひとつは、ハンターを新しく養成するためには、免許の取得に対する助成金や、猟銃を買うときの助成金だとか、そのへんをきちんと対応しないといけない。猟友会のメンバーが何を今必要としているのか協議した上で判断せざるを得ないと思っている。ハンターも責任を持っているので、出動するというのは大変な任務である。命も懸かることなので、地元ハンターと十分協議しながら、今後進めていきたい。

高森 ハンターが10名猟友会に登録されているが、常時出動できる方は、何名か。

産業振興課長 日中仕事を持っている方がほとんどなので、すぐに駆けつけてもらえるのは今の



クマ出没注意喚起看板

ところ2名となっている。
高森 常時出動できる方が2名ということだが、八雲町では農林課の職員が2名免許を持っている。長万部の役場の職員にもハンターの免許を取って

もらおうという考えはないのか。
町長 職員で狩猟免許を持っている人は現在いないので今後検討する。



議場へ足を運ばなくても、自宅や外出先でも本会議を傍聴できるよう、インターネット (You Tube) にて中継を実施しています。チャンネル登録をしていただくようお願いいたします。



PC、スマホ、タブレット等から
議会の映像がご覧いただけます

YouTubeで

長万部町議会 🔍

を検索してください